

越後荒沢岳

北ノ又川岩魚沢

石井

【日時】2006年9月2日～3日

【メンバー】石井(L)、小暮、栗原

毎度のことではあるが、会山行のパーティー割では何時も怪しげなルートにリーダーとして送り込まれているような気がする。記録の無い(少ない)、得体の知れないようなルートを集中時間を気にしながらこなさなければならないプレッシャー、やった者でないとわからないだろうな。何時ぞやの秋の集中など、総括リーダーをホントに恨めしく思ったものだ…。さて今回、異常な残雪という条件の下、越後・荒沢岳の集中、担当は岩魚沢。当てにならない登山大系の記述以外目にしたことがないし、大ビラヤスに下れなければ越後の密藪に突入だ。

そもそもテン場あるのか?等々考えつつも、メンバーも心強いし、いつもの調子でまあ、何とかなるだろうと考えて当日を迎えた。

銀山平・白銀の湯の先まで車で送ってもらい、大ビラヤス沢パーティーと共に坪倉沢から北ノ又川に下る。小一時間平川の北ノ又を辿り、さらに上流の大ビラヤスに向かう田邊さん、大野さん、笹川さんと上二俣での再会を誓い、出合で別れる。さて肝心の岩魚沢はというと、名前とは裏腹に急峻に立ち上がっており、朝日に照らされた稜線が近く感じる。概ね流程2kmで標高差900mだから、ちょうどスケールの的には丹沢の沢の標準くらいだが、ここは越後、3、4時間で抜けられるような内容でもないだろう。

ゴーロを辿っていくと、程なく陰鬱なチムニー状の8m滝が懸かる。偵察するも登れず、小暮君にお助けを出してもらい左から巻くが、登りだしが悪い。小滝を越していくと早速ブロックが散乱し始め、釜を持つ5m滝も左から巻いてルンゼから沢に下ると、先が見えないブリッジに出くわす。側壁が悪いので仕方なく潜っていくと長くはなく、小滝を登って切れ目となっていた。続くブリッジは上に行くが、右側壁からの乗り移りはブリッジの足のナイフリッジ状を行ったので怖かった。ブリッジより右岸のスラブを登り、上部の滝を巻いて草付を下り、ようやく河原となる。ブロックと8m滝を越し、トイ状滝を前衛に大きそうな直瀑が懸かるが、近づくともうそうでもなく、右から少し大きく巻いて越えられた。

この辺りから谷はのびやかに開け、ナメ滝が多くなってきた。うろこ雲を配した秋空と開けたスラブ、散乱するブロック、うーん、越後の沢だ…。ブロックを越し

た先には大きな滝が懸かっている。登山大系では50m大滝となっているが、せいぜい30mといったところで、やや悪い部分もあるが、左からノーザイルで越えていく。正面が枝沢、本流が右折している地点は不整形な三俣となっており、

真ん中の滝を左から越して入る。既に水量も少なく、どこで区切ったら良いのか判らないような連瀑が延々と続くが、ロープを出す程でもなく、ぐいぐいと高度を稼げる。最後の二俣を右に入り、流れは草付へと消えていくが、つめ上げまで藪が全く無く、快適に猿ヶ城上部の稜線に出た。正味約5時間、思っていたほどの悪場は無かった。

ひと休みしてから下降にかかる。急な灌木帯を下っていくと程なく窪から沢となり、ゴーロの下りやすい沢筋が続く。最後は美しいナメとナメ滝となり、稜線から一時間とかからずに大ビラヤス沢の上部二俣に出た。ここは一枚岩のスラブにナメが続くが、残雪脇の台地に幕場も確保でき、快適な別天地。さっそく薪集めやら、昼寝やらをしながら大ビラヤスパーティーを待っていると、無事4時過ぎに合流でき、無事ミニ集中。その夜は時間もたっぷりあり、岩の上で焚火しながらのんびりと寛ぐことができた。

翌日は大ビラヤス沢パーティーと同一行動で、小気味良くナメをつめ、少し藪を漕いで灰吹山鞍部の登山道に出る。小一時間で荒沢岳に到着、集中時間にも余裕で間に合い、その後全パーティーが時間までに集中することができ、荒沢岳集中は無事大成功のうちに終わった。

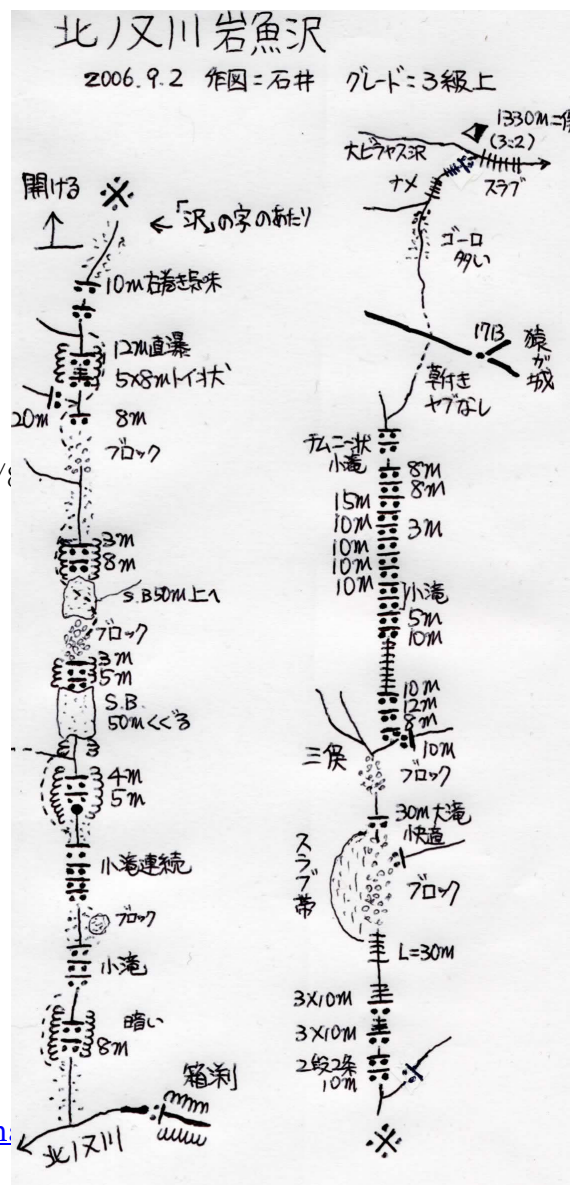
【行程】

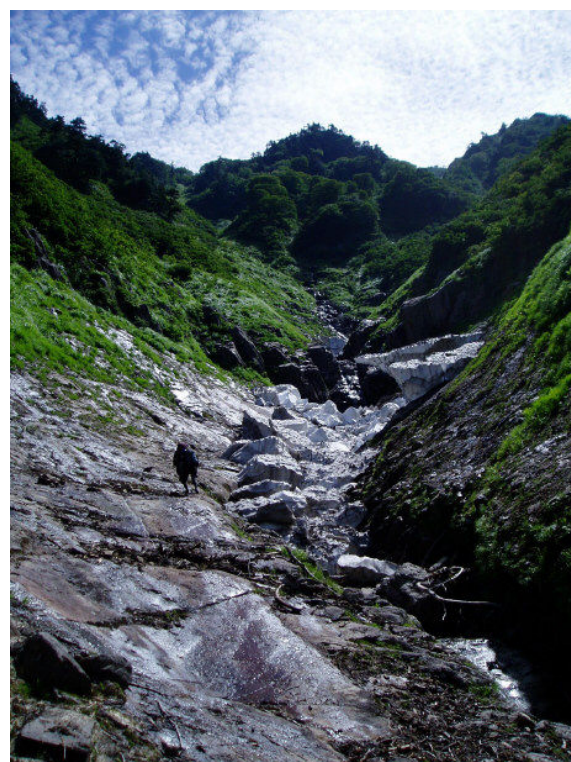
9/2 白銀の湯先 (7:05) ~ 岩魚沢出合 (8:05/8:15) ~ 上部三俣 (11:30) ~ 稜線 (13:15/13:30) ~ 大ビラヤス沢1330m二俣 (14:15)

※以下、大ビラヤスパーティーと同一行動

【地形図】 奥只見湖、八海山

【グレード】 3級上





左上：中流部の 12m直瀑は右から高巻く

右上：源頭は藪漕ぎも無く、快適につめ上げる

左下：大ビラヤス沢上部二俣の快適スラブの広がる幕場で大ビラヤス P と合流

右下：秋空をバックに、ブロックの散乱する中流部のスラブ帯